

数学・理系 — 岡山大学 2024 年入試問題分析 — 岡山進研学院

全体講評： ここ数年で最も難易度が高かった。大問1は解答の方針を明確にする必要がある。大問2は本質に気付けるか。大問3は計算量が多く、手ごわい問題。大問4はハイレベルな受験生にはなじみのあるテーマだが、経験が必要。全体の質感が上がり、差がつきやすいセットである。しかし、いずれも要演習の問題ばかりなので普段からこのレベルを想定して学習していく必要がある。	試験時間	120分
	難易変化	易化 / やや易化 / 昨年並 / やや難化 / 難化
	分量変化	減少 / やや減少 / 昨年並 / やや増加 / 増加

大問	区分	内容	講評	レベル
問1	数Ⅱ	整式の除法 高次方程式	文系と共通の問題。合同式を用いた解法なども考えられる。複素数や高次方程式の知識も必要となり、丁寧に進めていきたい。	★★
問2	数A	確率	(2)までは文系と共通の問題。前半は反復試行の典型問題ではあるが、後半は最短経路の応用と気付けば数えて処理ができる。	★★
問3	数B	空間ベクトル	ベクトルの典型手法と図形的処理を必要とする。情報を整理し計算量を減らす工夫を。要演習の1題。	★★★
問4	数Ⅲ	積分の応用	いわゆる斜軸回転体の求積問題。内容はハイレベルの受験生にとってはおなじみではあるが、誘導が丁寧についているためやりやすい。計算量もそこまで多くはない。	★★

学習指針： 実力差がストレートに反映される問題のセットではある。ここ数年複素数平面や2次曲線からの出題は見当たらないが、偏りなく各単元の標準問題をまずは確実に解けるようになること。テクニックなどに頼らず、自力で正攻法で解ける問題たちを増やしていくことが重要である。また、図形的考察や試行が少し複雑な確率の問題が毎年見受けられる。このような問題に対しても、準備をしておくといいたい。	※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比となっています。 ※ レベル表示は次の区分になります。 <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>難</td><td>→</td><td>★★★★</td></tr> <tr><td>やや難</td><td>→</td><td>★★★</td></tr> <tr><td>標準</td><td>→</td><td>★</td></tr> <tr><td>やや易</td><td>→</td><td>(無表示)</td></tr> <tr><td>易</td><td>→</td><td>(無表示)</td></tr> </table>	難	→	★★★★	やや難	→	★★★	標準	→	★	やや易	→	(無表示)	易	→	(無表示)
難	→	★★★★														
やや難	→	★★★														
標準	→	★														
やや易	→	(無表示)														
易	→	(無表示)														